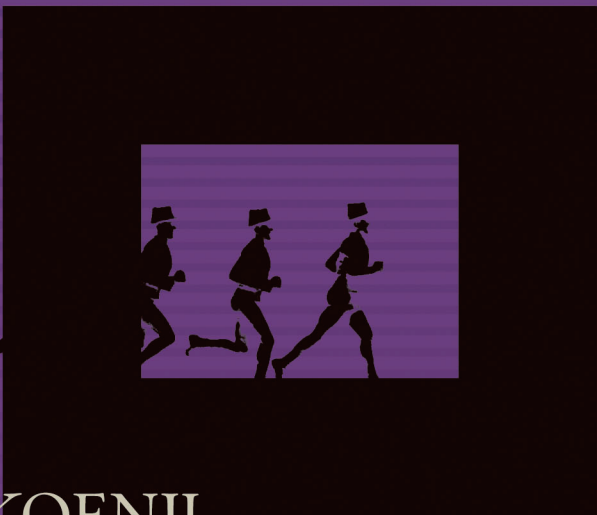




全国からドキュメンタリー作品を公募します。
入賞作品は、フェスティバル期間中に上映します。
既成概念にとらわれない、
自由で力強い作品を求めます。

新しい傑作を発掘する。



ZA-KOENJI
Documentary
Festival
Call for Entries
Competition

コンペティション部門作品募集

ドキュメンタリー
フェスティバル
第9回

座・高円寺

募集期間：2017年 9月1日[金]ー11月30日[木]

開催期日：2018年2月8日[木]ー12日[月・祝]

会場：座・高円寺2(杉並区立杉並芸術会館)

特集テーマ：「表現者たち」

主催：座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル実行委員会

共催：(株)ドキュメンタリージャパン

提携：NPO法人 劇場創造ネットワーク／座・高円寺

【ゲスト・セクター(予定)】

井浦新

森達也

是枝裕和

【俳優・映画監督】

ほか

コンペティション部門 | 募集要綱[要旨]

募集期間：2017年 9月1日[金]ー11月30日[木](当日消印有効)

詳細は必ずホームページ[<http://zkdf.net>]でご確認下さい。

【応募作品規定】

- ◆ドキュメンタリー映画、文化映画、記録映画、科学映画、教育映画、TV番組など。フィクション(劇映画・ドラマ)やアニメは不可。
- ◆作品尺は問いません。
- ◆制作年次が過去3年以内のもの(2014年以降に制作したもの)に限ります。ただし、過去3年以内に編集もしくは再編集したものは可。
- ※第1回～第8回「座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」に応募した作品は不可。
- ◆応募点数の制限はありません。
- ◆日本語以外の言語で制作された作品には、必ず日本語の字幕を添えてご応募下さい。
- ◆応募形態は、DVDでご応募下さい。
- ◆複数作品を応募する場合は、1作品ごとにDVDをわけて下さい。(1枚のDVDに1作品)
- ◆リージョンコード2またはリージョンフリー、コピーガード無しでご応募ください。

【応募料】

- ◆応募作品1点につき、2,000円。郵便為替(2,000円分)を、同封して応募してください。応募者には、「第9回 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」のパンフレット(コンペ応募作品名と一次選考通過作品の選評を掲載)を1部、進呈いたします。※郵便為替には、何も記入しないでください。

応募にあたっての注意事項(著作権について)

- 応募作品は、その著作権が応募者本人に帰属するものでなければなりません。
- 入賞作品に選ばれた場合、期間中に上映しますので、応募にあたっては、作品に使用した既成の音楽や映像の著作権について、使用許諾・使用料等、必要な著作権処理の手続きを済ませた上でご応募ください。

【応募者資格】

- ◆年齢、国籍、性別、個人、グループ、プロ・アマを問いません。

【応募方法】

- ◆以下を明記した用紙を添付のうえ、募集期間内に事務局にお送り下さい。
- ①応募作品の題名(フリガナ)
- ②作品の映写時間
- ③応募者の氏名(フリガナ)団体の場合は、団体名および代表者氏名
- ④応募者の住所
- ⑤連絡先電話番号／FAX番号
- ⑥メール連絡できる場合は、メールアドレス
- ⑦作品解説(簡単な概略・制作意図など)800字程度

【選考について】

- ◆応募作品の選考は「座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル コンペティション部門」選考会により行います。
- ◆応募作品の中からコンペティション部門入賞作品を選考します。
- ◆また入賞作品の中から「大賞」1作品を選考します。大賞の選考は「第9回 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」の期間中、2018年2月8日～12日に行います。

【上映・発表・表彰について】

- ◆「入賞作品」は、「第9回 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」、2018年2月8日～12日開催において上映します。
- ◆「大賞」作品の発表および表彰は、「第9回座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」期間中、2018年2月8日～12日に行います。

【賞および特典】

- ◆大賞：賞金10万円
- ◆入賞作品については制作者(1名)をゲストとして「第9回 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」に招待します。

【応募先】

座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル実行委員会「コンペティション部門」事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-20 | 電話：03(5570)3551 | Fax:03(5570)3550
和見ビル1階(株)ドキュメンタリージャパン | Mail:za.kouenji.documentary@gmail.com



過去のコンペティション部門
入賞作品

第1回 | 2010年

- 【大 賞】「国旗の下に」(監督：大須賀康之・根来知宏／製作：藤田修平研究室)
- 【入 賞】「ナナイの涙 ～米兵が残した命の物語～」(監督：中井信介／製作：手わたしプレス)
- 「GOD AND FATHER AND ME」(監督：鈴木光)
- 「路上のカルテ」(演出：風華隆宏／製作：東海テレビ放送)
- 「終わりに旅」(企画・取材・構成：梅崎陽)

第2回 | 2011年

- 【大 賞】該当作なし
- 【観客賞】「幸せな時間」(監督：横山善太)
- 【奨励賞】「“私”を生きる」(監督：土井敏邦／製作：「私”を生きる”制作実行委員会)
- 「しみじみと歩いてる」(監督：島田暁)
- 【入賞】「ガジラの青春」(監督：松本壮史)

第3回 | 2012年

- 【大 賞】「僕たちは見た ～カザ・サムニ家の子供たち～」(監督：古居みずえ／製作：アジアプレス・インターナショナル)
- 【入 賞】「三人の酒蔵 ～社長とナナさんとウエキの冬～」(ディレクター：豊島学恵／製作：関西テレビ放送)
- 「相馬看花 第一部 奪われた土地の記録」(監督：松林要樹)
- 「Coming Out Story」(監督：梅沢圭／製作：日本映画学校)

第4回 | 2013年

- 【大 賞】「標的の村～国に訴えられた東村・高江の住民たち～」(ディレクター：三上智恵 | 製作：琉球朝日放送)
- 【新人賞】「菅野結花」(「きょうを守る」監督・撮影・編集)
- 【入 賞】「さなぎ～学校に行きたくない～」(監督：三浦淳子／製作：クロスフィット、トリストロ・フィルムズ)
- 「放射線を浴びたX年後」(監督：伊東英朗／製作：南海放送)

第5回 | 2014年

- 【大 賞】「祖父の日記帳と私のビデオノート」(監督：久保田桂子)
- 【入 賞】「加藤くんからのメッセージ」(監督：綿毛)
- 「和ちゃんとオレ」(監督：曹絹袖／製作：テレビ東京)
- 「桃と小桃とこもも丸」(監督：新部貴弘)
- 「飯館村 わたしの記録」(監督：長谷川健一)

第6回 | 2015年

- 【大 賞】「イラク チグリスに浮かぶ平和」(監督：綿井健陽／製作：ソネットエンタテインメント)
- 【入 賞】「沖縄／大和」(監督：比嘉賢多)
- 「ヘイトスピーチ」(監督：佐々木航弥)
- 「風和里～平成の駄菓子屋物語～」(監督：田中健太)

第7回 | 2016年

- 【大 賞】「沖縄 うりずんの雨」(監督：ジャン・ユンカーマン 製作：山上徹二郎、前澤哲爾、前澤真理子)
- 【入 賞】「ETV特集 沈黙を破る手紙～戦後70年目のシベリア抑留」(ディレクター：松原翔／製作：NHK京都)
- 「サムライと愚か者ーオリンパス事件の全貌ー」(監督：山本兵衛)
- 「たゆたいながら」(監督：阿部周一)
- 「チョコレートケーキと法隆寺」(監督：向井啓太)

第8回 | 2017年

- 【大 賞】該当作なし
- 【奨励賞】「リアルマリオ。～空想と現実の間で～」(ディレクター：下野賢志 製作：CBCテレビ)
- 「彼らの原発」(製作・監督：川口勉)
- 【入 賞】「ひいくんのあるく町」(監督：青柳拓)
- 「ほくの、ミット」(監督：武藤久／製作：南日本放送)
- 「飯館村の母ちゃんたち 土とともに」(監督：古居みずえ)

特集

表現者たち

2018年2月の第9回に向け、上映プログラムを選ぶ作業が始まっています。ドキュメンタリー作品は、社会の問題点に眼を向けていくものが多く、そのテーマ性で評価される傾向があります。一方、ドキュメンタリーの作り手にとって、カメラを向ける魅力的な対象との出会いが、作品を作る強いモチベーションになっているケースも多く見られます。対象そのものが発している力に、作り手は引きつけられるのかもしれませんが。今回は、社会に向けて何かを発している、言わば“表現者たち”を記録した作品を選んでいきます。“表現”は、単にアートだけに留まらず、生き方、政治活動etc.と広く考えています。“表現者”にドキュメンタリストがどう対峙し、ドキュメンタリーの表現を獲得して来たのかを見つめてみたいと思います。

プログラムディレクター 山崎 裕